

なじらね.jp 秋

どっとじゃーピー

平成 22 (2010) 年 9 月 30 日 (木) 発行 - 第 4 号 -



[発行人] 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」 会長 平山 征夫 / 事務局長 横山 容司郎
The Supporting Organization of JOCV NIIGATA
[事務局] 〒950-2063 新潟県新潟市西区寺尾台3-6-5 有徳ビル3F (株)アルファブライト 内
Tel. 025-268-0200, Fax. 025-260-1226, E-mail; n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
URL <http://www.n-sojocv-najirane.com>
[題字] 藤田 美枝子 (※「なじらね」とは、新潟弁で「元気ですか?」の意味)
[編集人] 広報文化専門委員会 山田 規央

- NAJIRANE Headline -

- 【巻頭言】 “なじらね.jp”の第4号の発行に寄せて P-1
【巻】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第2回総会を開催 P-2
【式】 中古楽器のご寄付のお願い～SOS from ドミニカ共和国&フィジー P-2
【参】 本県出身のJICAボランティア(青年海外協力隊&シニア海外ボランティア)
平成21年度4次隊(H21-4)、平成22年度1次隊(H22-1)が任国へ赴任! P-3
【四】 当会によるJICAボランティアOV出前講座を実施! P-4
【五】 隊員候補者、派遣中隊員、帰国隊員よりメッセージ P-5~7
【六】 2011年版カレンダー販売のご案内 P-7
★ JICAボランティア用語、お知らせ P-8

Let's Access Our Official Homepage! ★ <http://www.n-sojocv-najirane.com>

【巻頭言】“なじらね.jp”第4号の発行に寄せて ～ 社会の活力となる人を育てる場としての青年海外協力隊 ～



にいがた青年海外協力隊を育てる会
監事 宮田 春夫
(新潟大学 国際センター 教授)

開発の根幹は、自分たちの生活を良くする一人一人の力である。一人一人が、生活を良くするために行動する主体なのである。これは、ノーベル賞受賞者アマルティア・センが言っていることですが、今日の日本についても言えることです。彼は、ムラ社会の問題も指摘しています。グローバル化の中で、我々の生活は遠い国の人たちにも思わぬ影響を及ぼす。別の社会の人たちからは、普段気づかないことに気づかされることも多い。世界の人々は、職業、趣味等々、国籍以外の多様なアイデンティティーによって多様につながっている。

開発途上国が、絶対的にも相対的にも向上する場合にのみ、世界の均衡が実現される(大来佐武郎元外相1972年)。途上国の人々の生活を良くすることは、「我々」即ち「開発途上国の人たちと先進国の者」の共有の未来(our common future)を作ることである(プラント元西独首相1980年)。北側の国々では、南の国々に対する理解と協力を広め、グローバルな共同体意識を育てていくことが重要である(緒方貞子JICA理事長1984年)。

協力隊は、一人一人が自分たちの生活を良くするために行動する主体であることや自分たちの気づかなかったことを学び、また、グローバルな共同体意識を得る場です。それは、グローバル化の中の日本社会の力になります。このことを、行政機関、企業、教育機関等に更に理解頂けたらと思っています。

【菴】 「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第2回総会を開催！

去る平成22年6月5日(土)15時より新潟会館において、「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第2回総会が開催されました。議事録はすでに会員の皆様にお届けしてありますので詳細は省かせていただきますが、今年度の新規事業として、市町村長を表敬訪問し、協力隊事業の周知と派遣条例制定のお願いをしたいと考えています。また、県内の大学や企業で積極的に出前講座を開催し、協力隊事業の理解と応募促進をしたいと思っています。



総会後には、「協力隊を支援するやまがた地球家族の会」副会長・斉藤栄司氏による講演会を開催し、ハローワークで青年海外協力隊枠の設置など先進的な活動を紹介していただきました。また、JICA新潟デスクとの共催で帰国隊員報告会を開催し、下條好絵さん(H19-2/エクアドル共和国/服飾)と内堀美津子さん(H19-3/モンゴル国/青少年活動)の2名の青年海外協力隊OGから、現地での活動報告をしていただきました。

会員の皆様が周囲の方々に当会のことをお話しして頂くことで、県内のより多くの人達に青年海外協力隊や国際協力に興味を持って頂けると幸いです。そしてそれがこの会のさらなる活性化につながると思いますので、今後も宜しくお願いします。

(文：横山 容司郎／写真：山田 規央)



斉藤栄司氏によるご講演



下條好絵OGによる帰国報告



内堀美津子OGによる帰国報告

【弐】 中古楽器のご寄付のお願い～SOS from ドミニカ共和国&フィジー

青年海外協力隊で活動中の神田綾子さん(H22-1/ドミニカ共和国/音楽)、谷元気さん(H22-1/フィジー諸島共和国/小学校教諭)より、当会ホームページのお問い合わせフォームにて、下記SOSの連絡が届きました。



神田綾子



こんにちは。現在、首都サントドミンゴから車で1時間半ほど離れた、サンクリストバル・カンピータという町にある、「サンタマリア小学校」というところで音楽の指導をしています。この国では、音楽は授業としては独立しては無く、「芸術」として図工と音楽などがまとめられています。そのため、初めて音楽を勉強する子供たちばかりですが、歌を歌ったり、鍵盤ハーモニカ・リコーダーを演奏したり、楽しそうに取り組んでいます。この町では毎日、停電します。停電中、町を散歩していたら、どこからか「ドレミファソ〜」と口ずさむ声が聞こえてきました。小学校の生徒たちでした。現在、毎日複数の生徒たちが兼用で使っている楽器は、音が出なかったり、ホースは穴だらけで、思うように演奏ができません。生徒たちは、ドミニカ共和国国歌を演奏することが目標で、たくさん練習しています。日本にある使用しなくなった、鍵盤ハーモニカ・リコーダーなどを集めて頂けると、大変嬉しいです。宜しくお願いいたします。(2010/9/22)



谷元気



早いもので派遣から3カ月が経ちました。活動も本格化し、現実を目の当たりにしている毎日です。フィジーは物資が不足している感じはあまりありませんが、残念なことに教育予算がとても少なく、校舎やトイレにいたってはボロボロ、もしくは壊れている中で、子どもたちは毎日元気に過ごしています。そんな子どもたちに、体育・音楽・図工を教えている毎日です。特に不足しているのは、楽器(鍵盤ハーモニカ、リコーダー、またはキーボード)、図工セット(画用紙、折り紙、水彩絵の具セット)です。手作りの楽器で楽しむこともできますが、子どもたちは楽器に一度も触れることなく大人になっていく現状、図工も同様の現状があります。現地には「シェアする」といった文化があるので、一人に一つ行きたなくてもグループ活動で道具をシェアすることができます。可能な範囲で構いませんので、以上の物品を申請理由を添えて要請します。何卒よろしくお願いします。(2010/9/29)

これを受け、当会では中古楽器(ご不要になったものでも可)の募集、送料に充てる支援金(500円から)の募金の活動を行ないます。皆様のご家族、ご友人、職場等におきまして、お声掛け頂けると幸いです。

■募集物品：鍵盤ハーモニカ(目標:50個)、リコーダー(目標:50本)、その他(タンバリン/すず/カスタネット/トライアングル等) ■募集期間：平成22年11月末まで(目安) ■連絡&搬入先：当会事務局へ(本紙題字下)

■支援金の入金先：【名称】にいがた青年海外協力隊を育てる会【口座番号】ゆうちょ銀行の振替⇒口座番号00520-3-100489/他行から振込⇒ゆうちょ銀行059店 当座0100489 ※通信欄に「支援金」と明記 子どもたちのために、皆様の温かい善意をお寄せ頂きたく、ご協力をお願い申し上げます(当会HPもご参照)。

※国旗・地図の引用:外務省HP (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>)

(文：山田 規央)

【参】 本県出身のJICAボランティア（青年海外協力隊&シニア海外ボランティア） 平成21年度4次隊(H21-4)、平成22年度1次隊(H22-1)が任国へ赴任！

本県出身の青年海外協力隊(JOCV)・シニア海外ボランティア(SV)、平成21年度4次隊(H21-4)の新隊員4名(JOCV 3名+SV 1名)が平成22年3月下旬に、平成22年度1次隊(H22-1)の新隊員7名(JOCV 7名)が平成22年6月下旬にそれぞれの任国へと出発しました。新隊員は派遣前訓練終了後に本県に帰郷し、それぞれ3月19日、6月18日に新潟県庁および新潟県国際交流協会に表敬訪問を行ない、当会からは横山事務局長が同伴致しました。また、それぞれ同日夜刻より、当会と新潟県青年海外協力協会(JOCA新潟)との共催で派遣前壮行会を新潟市内で行ない、新隊員の皆さんを激励させていただきました。当会としては、任国で活躍する本県出身隊員の活動を地域ぐるみでサポートしていけるように、取り組んでいきたいと思っています。また、このたびの新隊員表敬訪問に合わせ、帰国隊員も同行し、帰国報告を行ないました。新隊員それぞれの紹介と派遣にあたっての抱負は次の通りです。

※○ 青年海外協力隊(JOCV) / ● シニア海外ボランティア(SV)

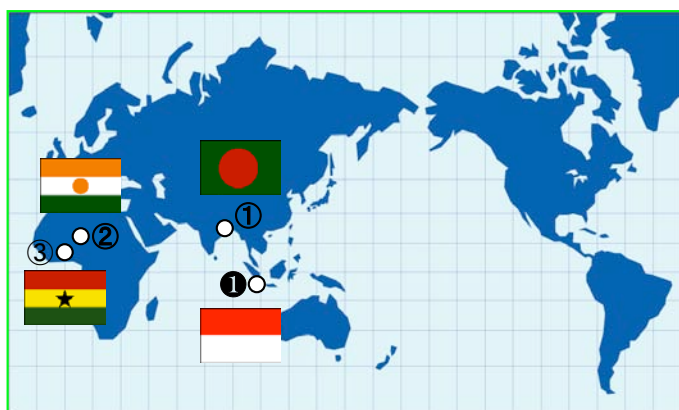
新隊員(H21-4)	任国	職種
①袖山 創 さん	バングラディッシュ人民共和国	水泳
②中川 光晴 さん	ニジェール共和国	電気・電子機器
③涌井 和美 さん	ガーナ共和国	服飾
●朝川 雅子 さん	インドネシア共和国	ジュエリーデザイン

一人でも多くの人に水泳の楽しさを伝えられるように、頑張ります。

健康と安全に気をつけて、自分のできることを一生懸命やりたいと思っています。

不安もありますが、(新規案件なので)精一杯できるかぎりの事をやってきたいです。

伝統を活かしたデザインや制作を提案したいと思います。



新隊員(H22-1)	任国	職種
①神田 綾子 さん	ドミニカ共和国	音楽
②捧 文子 さん	マレーシア	作業療法士
③谷 元気 さん	フィジー諸島共和国	小学校教諭
④本間 瑞恵 さん	パナマ共和国	村落開発普及員
⑤丸山 徹 さん	ソロモン諸島	自動車整備
⑥水口 亜紀 さん	ボリビア多民族国	青少年活動
⑦宮川 友里 さん	バングラディッシュ人民共和国	感染症対策

音楽を通して現地の人と交流したいです。

不安いっぱいですが、健康第一で頑張ります。

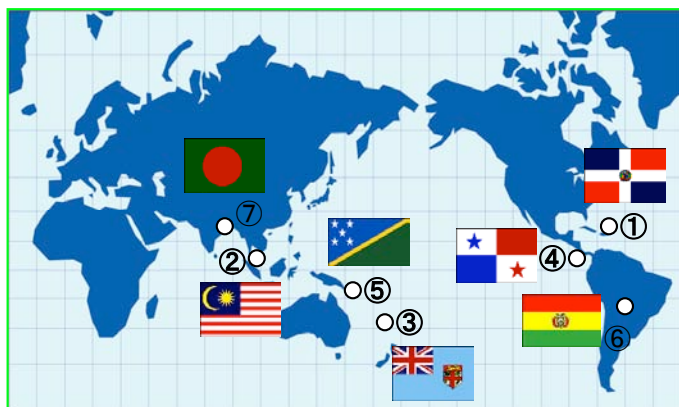
みんなが元気で笑顔が溢れるよう、心と体をぶつけてきます！

住民目線で一緒に生活したいです。

日本の様にきちんと整備された車が無いと思うので、見て来たいです。

現地の人たちと生活を共にして、たくさんのものを見て感じて考えて、吸収してくる2年間にしたいです。

いつも感謝の気持ちを忘れずに、みんなの心に残る活動ができればと思います。



《帰国者表敬》 ●内堀 美津子 さん(H19-3/モンゴル国/青少年活動) ※写真上

●柳 綾子 さん(H19-4/ブルキナファソ/看護師)

●渡邊 亮 さん(H19-4/ザンビア共和国/理数科教師)

※国旗&地図の引用:世界地図・世界の国旗 (<http://www.abysse.co.jp/world/>)

(文: 山田 規央 / 写真: 佐脇 奈都代)

【四】 当会によるJICAボランティアOV出前講座を実施！

当会では今後、地域社会におけるJICAボランティアへの認知度向上と、国際理解促進のため、様々な機関や団体と提携してOV等による出前講座を積極的に行なっていきます。早速、現在までに、2回実施致しましたので、以下に報告致します。

第一回 JICAボランティアOV出前講座

- 日時:平成22年7月4日(日)、13:30 - 15:00
- 場所:新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」
- 講師:JOCV 渡部 麻利子 さん
(H20-1/ミクロネシア連邦/小学校教諭)
- 主催:新潟大学 国際センター



当会監事・新潟大学教授の宮田春夫氏と共同で、特別講義「青年海外協力隊の経験から得たもの〜ミクロネシアの小学校教諭の経験から」を実施致しました。

講師の渡部さんは現職教員特別参加制度を利用し、仕事を辞めずに青年海外協力隊に参加し、今年3月に帰国後は新潟市内の小学校で勤務しています。当日は約10名の参加者が集まり、講師の渡部さんは任国での体験を、ワークショップを交えて講義してくれました。ミクロネシアの人々の家族を大切にしたい、渡部さんが活動中に突き当たった算数ワークショップでの問題やそれを乗り越えた苦労話等、あっという間の90分でした。

参加した学生は、JICAボランティアに興味を持っている人が多く、引き続き行われた青年海外協力隊の募集説明会にも多くの学生さんが残り、JICA新潟デスク国際協力推進員の佐脇氏から協力隊事業の説明を熱心に聞いていました。



(文: 渡邊 嘉顕 / 写真: 宮田 春夫)

第二回 JICAボランティアOV出前講座

- 日時:平成22年9月19日(日)、15:00 -
- 場所:NEXT21 6F「新潟市民プラザ」
- 講師:JOCV 内堀 美津子 さん ※写真 上
(H19-3/モンゴル国/青少年活動)
- JOCV 小野澤 由華 さん ※写真 下
(H20-1/バヌアツ共和国/小学校教諭)
- 主催:株式会社 アルファブライト



当会の事務局を担当するアルファブライトは、社内研修会「アルファブライト大学」を開催、その中で第2回の出前講座となる青年海外協力隊の帰国隊員による活動報告を実施致しました。

2名の講師は、当日の研修会出席者約250名(主に大学生の塾講師)を前に、隊員時代の活動内容や現地の人々の様子、参加した感想について、画像等を用いて報告して頂きました。日本と異なる文化や隊員が経験したエピソードに、会場の皆さんは真剣に耳を傾けていました。また、この報告会に先立ち、当会の副会長でもある羽賀友信氏により「のばせ人間力」というテーマで特別講演をしていただきました(写真左上)。

当社は、今後も当会の事務局機能を担い、現役JICAボランティアの活動支援を通して開発途上国への協力活動を行ない、帰国後の就職支援などにも積極的に取り組んでまいります。



(文・写真: 渡辺 松一)

【五】 隊員候補者①-③、派遣中隊員⑤-⑧、帰国隊員④⑨からのメッセージ

① 佐藤 源 *Mr. Gen Sato, Candidate for JOCV*

(平成22年度4次隊 / セントルシア / 理学療法士 / 阿賀野市出身)



私はこの度、二度目の挑戦で春募集で合格が決まりました。正直、1年くらい悩みましたが、今しかできないことと腹をくり、応募を決意しました。以前は漠然と途上国の役に立ちたいと考えていましたが、「地域に根付いたリハビリテーション(CBR)」の概念を勉強してみて、システムを整えることで当事者や地域社会に貢献できる部分があると感じました。どこまでできるかはわかりませんが、現地では思い切りあがいてくるつもりで



今後応募する人は、面接試験の際にも具体的に何がしたいか、そのために何を努力しているかを面接官にアピールできたら強いと思います。あとは健康ですかね…。2回試験を受けた経過から、春募集の方が合格の可能性が高いように感じます。話によると訓練所の収容人数が春募集でおおよそ埋まるため、との事です。そのため秋募集では募集枠に対して合格者が少ないですが、不合格者はいなかった結果と私は解釈しています。協力隊を目指す人へ！是非春募集での応募を勧めます！！

(文・写真：佐藤 源)

② 池田 知世 *Ms. Tomoyo Ikeda, Candidate for JOCV*

(平成23年度1次隊 / フィジー諸島共和国 / 理数科教師 / 新潟市出身)



青年海外協力隊に興味を持った最初のきっかけは、新潟県青年海外協力協会主催の「高校生国際協力体験視察の旅」でした。その後、教員生活を経て、日本の子どもたちにもっと多くのことを「伝えたい」と思うようになり、協力隊に応募しました。



教員生活の中で「伝える」技術を身につけたことは、私の大きな強みです。日本での社会人経験は大切だったなと思います。任国のフィジーでは、子どもたちに、数学のおもしろさだけでなく、日本の子どもたちのことや学校の様子を伝えたいと思っています。今はフィジーでの新たな出会いにワクワクしています。

これから応募を考えている皆さん、目の前のことに精一杯取り組んでいく事が、協力隊合格の一番の近道だと思います。頑張ってください！応援しています！

(文・写真：池田 知世)

③ 相馬 葉 *Ms. Yo Soma, Candidate for JOCV*

(平成23年度1次隊 / タンザニア連合共和国 / 生態調査 / 新潟市出身)



念願だった青年海外協力隊、2回目にしてやっと合格することができました。今まで相談にのっていただいた方々、協力隊への参加に理解を示してくれた家族に感謝しています。ありがとうございました。

現地ではどんな出会いや発見が待っていて、自分が現地でどれだけ成長できるか、今からわくわくする気持ちでいっぱいです。悔いの残らないように、2年間精一杯活動していきたいと思っています。

(文・写真：相馬 葉)

④ 見原 真 *Mr. Makoto Mihara, Old JOCV*

(平成20年度1次隊 / 青少年活動 / ケニア共和国)

新潟駅前でティッシュを配る男性に「Hello.」と声をかけられたケニアからの帰国直後。肩まであったドレッドヘアーや日焼けで黒光りしていた肌など、ケニア人には見えないにしても、日本人にも見えなかったのだらう。

あれから早3ヶ月、駅前では日本語で声をかけてもらえるまでには社会復帰を果たし、現在は新たな挑戦に向け鋭意努力中だ。

青年海外協力隊5力条なるものに、「その時もその後も大らかな夢に生き」とある。そうありたいと思う。

(文・写真：見原 真)

男子更生院のこどもたちと



⑤ 明間 篤夫 *Mr. Atsuo Akema, SV*

(平成21年度2次隊 / マレーシア / 就職・企業連帯活動)

配属先であるコタサマラン産業訓練校では、現在、男女約530人の生徒が8科のコースで学んでいます。私は本校卒業生のOJT・就職率を上げる活動をしており、企業訪問を行ったり、生徒を引率して企業見学をしています。

私が住むクチンは多民族(マレー、イバン、ピダユ族、中国系、その他)が住む地方都市です。首都クアラルンプールから海を隔て約1,000km離れています。クチンはマレー語で「猫」を意味します。市内には猫の銅像が数箇所あり、旅行者が記念写真を取っています。

(文・写真：明間 篤夫)



「猫」とわたし



配属先の学生と

⑥ 西川 真里生 *Ms. Mariyo Nishikawa, JOCV*

(平成20年度3次隊 / ガーナ共和国 / 村落開発普及員)

こんにちは！ガーナは現在雨季も終盤で、乾季に向けて少しずつ暑くなってきました。私の任地はガーナの中でも最北で、乾季の暑さは40度を超えます。私は郡役所の水・衛生課に所属し、井戸に関わる活動や石鹼を生産している団体へ販路拡大などのサポートを行っています。ガーナの人々(特に任地ロウラの人々!)はとても穏やかで親切なので、みんなに助けられながら楽しんで活動をしています。任期もあと僅かなので思い残すことなく活動を終わられたらと思います。

(文・写真：西川 真里生)



完成した井戸にて



雨期の北部



石鹼のラッピング

⑦ 長沢 潔 *Mr. Kiyoshi Nagasawa, SV*

(平成21年度2次隊 / モロッコ王国 / ビデオ番組制作)

モロッコはイスラム教国。8月上旬からアラーの神に仕える重要な儀式ラマダン(断食)が始まりました。約1カ月間、日が昇っている間は食事はもちろん水も飲めません。太陽が沈むと人々はその日初めての食事を摂ります。当然、一度にたくさん食べてしまうのでこの期間中は太ってしまうとか。今は、ラグビーボール状のスイカ、キウイに似たサボテンの実など、甘くておいしい果物が出回っているので私もつい食べ過ぎてしまっています。

(文・写真：長沢 潔)



大きな西瓜



⑧ 高橋 秋人 Mr. Akihito Takahashi, JOCV

(平成21年度2次隊 / エクアドル共和国 / PCインストラクター)

¡Hola! ¡Cómo están! 新潟の皆さんこんにちは。ここエクアドルはバナナやダーウィン進化論で有名なガラパゴス諸島を有する南米の国です。私の任地は首都キトより800km離れた山奥のサモラという町で、活動先は現地の高校です。同僚教師たちにMicrosoft Officeの講義、学校のホームページ作成、生徒への数学指導などを行っています。ワールドカップサッカーの日本の活躍やエクアドルのコレア首相の訪日などで、エクアドル人たちの日本への関心も高まりつつあります。新潟の皆さんも是非、南米の国エクアドルに興味をもって、インターネットなどで調べてみて下さい！ ¡Chao! (さようなら) (文・写真：高橋 秋人)



小学校で折り紙教室



サモラ市

⑨ 森田 敏明 Mr. Toshiaki Morita, Old JOCV

(昭和52年度3次隊 / 測量 / マラウイ共和国) ※当会理事

私が土木関係で協力隊に参加しようと思ったのは高校一年の16歳だった。そして24歳で合格し測量隊員としてマラウイに赴任した。

次に帰国後に選んだ職業は地元で青少年犯罪を担当する警察官だった。しかし、なってしまったのは成人相手の刑事部門だった。あっという間に29年間も在籍してしまった。

実をいうと、50歳代になってからは、技術を又身に付けてシルバーで協力隊に参加してもいいなあと思うようになり、それなりにレーダーを張っていた。これも数年前から再び協力隊の行事に参加するようになったのがそのきっかけでした。

この三月、56歳で依願退職をし、次に選んだ職業が自転車屋、それも出張修理専門という実に面白い仕事です。学生時代には自転車で沖縄以外、日本中を自転車でツーリングした経験があり、自転車は最高にいい乗り物です。この新たな仕事を一緒にやろうと誘われたのはまさに千載一遇の機会だったのです。まだはじめたばかりですが、もうかなりの知名度を頂き徐々に仕事依頼は多くなって来ます。将来的にはOVの雇用、国際協力に貢献して行ければと夢を見て自転車いじりをしています。

(文・写真：森田 敏明)



モンゴルの旅先で



現職は動く自転車屋

※国旗の引用：外務省HP (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>)

【六】 2011年版カレンダー販売のご案内

(社)協力隊を育てる会 2011年版カレンダーが、JICAボランティアの活動する国々の「小学生」をテーマに制作されました。

このカレンダーに、当会と新潟県青年海外協力協会の名を併記し、共同で販売を致します。ご希望の方は、当会事務局までご連絡下さい(連絡先は本紙題字下)。

●仕様：壁掛け型、見開き 縦390×横297mm・上面・写真／下面・暦(書込み可)

●価格(単価)：700円、3部以上で500円 ※送料は当会負担

●購入方法：(1)当会にお申し込み、郵送後、同封の用紙でご入金。

(2)当会指定口座へのご入金でお申し込み確認後、1週間程で郵送。

●入金先：【名称】にいがた青年海外協力隊を育てる会

【口座番号】ゆうちょ銀行の振替 ⇒ 口座番号 00520-3-100489

他行から振込 ⇒ ゆうちょ銀行 059店、当座 0100489

●備考：通信欄に「カレンダー代」と部数を明記。事務局まで直接お買い求めに来て頂いても構いません。



(カレンダー表紙)

(文：山田 規央)

